

データヘルス計画策定に 役立つ医療費分析の基礎

令和5年度 医療費分析研修会

7月3日 AP市ヶ谷



今年度は次期データヘルス計画策定の年度であることから、医療費の基礎的な知識を習得し、KDB（国保データベース）システムを活用して、医療費分析の流れ（読み取りの順序）と解釈の仕方について理解することを目的に標記研修会を開催した。各保険者の担当者が、会場18名、リモート80名受講し、KDBシステムを活用したデータの読み解き方について学んだ。



講師 国立保健医療科学院 生涯健康研究部
部長・医学博士

横山 徹爾 氏

始めに、生活習慣病の危険因子について、動画を用いて主要な疾患とリスク因子、生活習慣病との因果関係についてご説明いただいた。

その後、基礎的事項から詳細に解説が行われ、「データが膨大なため、分析の仕方が分からない」といった保険者が陥りやすい悩みに対して、各種データの原因と結果の相互関係に着目するなど、分析する時のポイントについて述べられた。

また、受講者は事前課題として、KDBシステムを活用した帳票作成を行っており、講師からデータの見方について説明を受けた後、改めて自保険者のデータを分析し、新たな気づきを得られた様子であった。

後半では、3保険者の実データを基に、それぞれの帳票から何を捉えたらよいのかなど講師による解析を聞きながら、受講者は自保険者のデータを読み解くヒントを得るなど、より実践に即した研修会となった。

受講者からは「帳票類を出力できても、表や数値の読み解き方がわからなかったため、着目すべき点を講義で確認できた」「今までわからなかった生活習慣病の危険因子が引き起こしやすい病気や、KDBシステムを活用した地域の医療費分析方法について理解できた」などの感想が寄せられた。

マニュアル・ツール類は
国立保健医療科学院HPにて公開中！

科学院 生活習慣病

検索



地方自治体における生活習慣病関連の
健康課題把握のための参考データ・ツール集
厚生労働科学研究の成果の一部を公表しています



URL : <https://www.niph.go.jp/soshiki/07shougai/datakatsuyou/>



「教える組織」から 「教え合う組織」へ

国民健康保険料(税)収納率向上対策 研修会【管理監督編】

8月1日 本会会議室



滞納整理業務等に携わる管理監督者等を対象に進行管理・マネジメント力の強化を目的とした研修を実施した。講師には、今年度新たに組織マネジメント講師（元 東京都 主税局 特別滞納整理担当部長）の藤井朗氏をお招きし、「滞納整理とマネジメント」と題し、これまでのご経験に基づき、具体事例等を交えてご講演いただいた。研修会には、各保険者から約24名（そのうちリモート受講12名）が受講した。



講師 組織マネジメント講師
（元 東京都 主税局 特別滞納整理担当部長）

藤井 朗 氏

講義 「滞納整理とマネジメント」

冒頭、藤井氏は本日の研修会の狙いとして、

- ①「自ら考え、行動する」…主体的に考える
- ②「先送りしない」…仕事もプライベートなことも
- ③「組織で仕事をする」…意識を徹底する
- ④「人財育成が基本」…人づくりに投資する

の4点について説明された。

また、管理監督者の在り方について、「自分が在籍していた時だけ良ければよいという考え方では、組織として継続性がない。一人前の職員を何人育成したか、人財育成にどれだけ投資できるかが問われる」と述べた。

そして、組織力を高めるためには、知識のある者が一方的に「教える」のではなく、職員同士が自身の知り得

た知識や経験を「教え合う」ことが重要で、それが最終的には価値観の共有にも繋がっていく、と説明した。受講者は、藤井流リーダー・マネジメント論に熱心に耳を傾けていた。

研修会后、受講者からは、「内容がわかりやすく、実務に基づいて説明されているため説得力があった」「講義を聴いて、やる気が醸成された」「改めて自身のマネジメントを振り返る良い機会になった」などの声が寄せられた。

藤井氏の著書のご紹介



「地方税の徴収担当になったら読む本(学陽書房)」 藤井朗(著)

滞納整理のノウハウがこの1冊でつかめる!

はじめて地方税の徴収担当になった職員に向けて、実務の考え方・進め方をわかりやすく解説。地方税のしくみ・仕事の流れから、大量の事案をさばくためのマネジメント術、納税交渉・財産調査・差し押さえのポイントまでを網羅。実体験に基づく豊富なエピソードをもとに、心構えとノウハウを丁寧に伝えています。新たに配属された職員はもちろん、管理職にも役立つ必携の1冊となっています。